

# 第 212 回競技委員会議事録

1. 日 時：2011 年 6 月 1 日（水）18 時 00 分～20 時 00 分

2. 会 場：連盟本部事務局

3. 出席委員：

競技委員会：委員総数 13、定足数 9、出席 12（内委任状 3）欠席 1 で成立。  
清水康裕委員長、寺本直志、古田一雄、斉藤千鶴乃、正村祐一、  
山後秀幸、山菅昭夫、西田奈津子、仲村篤志  
以下委任状：林伸之、佐々部君敏、平田眞  
オブザーバー：大政哲人、鈴木正人  
欠 席：田中陵華

4. 議事の経過及び結果：清水康裕委員長を議長に議事を逐一審議した。

第 1 号議案 アラート規定改定記事の修正に関して

- (1) 2011 年 5 月 1 日発行第 58 巻 1 号に掲載したアラート規定改定の記事に間違いが発見された。電子メールによ会議のうで下記の対応をとった。
- (2) 2011 年 7 月 1 日発行第 58 巻 2 号に訂正記事を掲載する。
- (3) JCBL ホームページに、1 号および 2 号の記事をあわせた内容の記事を掲載した。
- (4) 5 月 26 日に開催されたブリッジセンター会議にて 2 号の訂正記事を配布した。

第 2 号議案 各委員の検討グループの配置について

- (1) 以下の検討グループを設置した。  
コンベンションリスト検討グループ：寺本委員、山後委員  
マッチポイントにおけるファクタライズに関する検討グループ：正村委員、仲村委員  
用語集検討グループ：清水委員長
- (2) 上記以外の問題に関しては必要に応じて検討グループを作り対応する。
- (3) 次回競技委員会にて中間報告を行う。

第 3 号議案 その他議案

- (1) 朝日新聞社杯での対戦方法においてできる限り再戦を排除してはどうかという意見が寺本委員から説明された。各委員より以下のような意見だされた。
  - ・対戦方式としてはラウンドロビン形式が理想であるが、スイス形式においても再戦を避けることでよりよい運営を行うことができるという意見が説明された。
  - ・現在の VP による順位において対戦することがスイス形式の趣旨ではないかという意見があった。
  - ・多くのスイス形式では少なくとも最終ラウンドは再戦調整をせずに行われているという意見があった。
  - ・再戦がなくなると終盤における自力優勝の可能性がなくなるという意見があった。
  - ・試合形式自体をラウンドロビンにしてはどうかという提案があった。
  - ・ラウンド途中の同着の処理は手計算時代の名残があるので一緒に検討してはどうかという意見があった。
  - ・同着の処理としては、IMP の得失点率、得失点差、勝数などが考えられるとの意見があった。以上等の意見のうえ検討の結果、下記の事項にて合意した。
  - ・同着の処理は、最終順位の処理と同様 IMP の得失点率にて行う。
  - ・ただし手計算等における処理も可能とするため従来どおり方式も許可する。
  - ・競技会規定を改定し電子メールにて承認のうえ理事会に提出する。
  - ・朝日新聞社杯は現在のスイス形式を維持し、最終ラウンド以外は再戦の調整を行う。
  - ・モンタルト杯、玉川高島屋杯 S・C もこれに準じ試合要項を改定する。
- (2) 2011 年 1 月～5 月の上告 2 件に関して意見を交換した。

次回競技委員会は 9 月 7 日（水）18 時 00 分からの開催を予定する。

以 上